

EUIJ 第 3 回国際コンファレンス

「グローバル化と欧州統合：ビジネスと社会的側面から見る歴史と今日」

(2007 年 1 月 13 日、津田塾大学)

EUIJ 第 3 回国際コンファレンス「グローバル化と欧州統合：ビジネスと社会的側面から見る歴史と今日」が、2007 年 1 月 13 日(土) 津田塾大学 5 号館 5101 教室において開催された。EU 加盟各国大使館、EUIJ 関係団体長、大学関係および報道各社等へ招待状やチラシを送付し、約 200 名の研究者、市民、学生の参加により行われた。その内訳は、約 20 人の国際会議招聘者の他、学生(約 90 人)、一般参加者(約 70 人)、その他(約 20 人)であった。EUIJ4 大学ではない研究者、HP で情報入手して参加した一般参加者も多かった。外務省大臣官房長夫妻、元経済企画庁長官や企業からはトヨタ広報部からの参加があった。

成果

この国際コンファレンスの目的は、今日の欧州統合をグローバル化の歴史的文脈の中で捉えようとするものであった。この欧州における歴史的実験におけるビジネス環境や社会モデルの変化を Flexibility and Cohesion をキー・ワードに、政治・経済・法的領域をまたがる多面的観点から検討し、現状分析と歴史分析の接点を模索する野心的試みであった。オーガナイザーの問題提起に答える形で、8 人のゲスト・スピーカーの力のこもった報告が行われ、6 人のコメンテーターの側からの質疑も内容のあるものだった。とりわけ EUI 学長 Yves Mény 教授による講演「グローバル化と拡大・深化 欧州連合における民主化の挑戦」と、Leslie Hannah 教授(東京大学)による「グローバル化と欧州企業：柔構造と剛構造の過去と未来」は、この国際コンファレンスの価値を高める内容であった。政治史、社会経済史の両面から現状分析に肉薄しようとする今回の試みは、EU 研究に新たなアプローチを可能とするものであり、日本における EU 研究のみならず広く EU に関する認識と知見を広げるものであった。報告者のプレゼンテーション技術と同時通訳により、研究者以外の市民や学生にとっても理解しやすいものであった。報告内容はプロシーディングとして刊行されることで、研究上も評価されるに違いない。今回のコンファレンスは多くの関心呼び、参加者も約 200 名と、EU に対する関心の広がりを示した。EUIJ 第 1 回、第 2 回国際コンファレンスとは異なる観点からの組織方針は、EUIJ 東京における EU 研究の多層的かつ多面的力量を新たためて提示したといえる。

展望

第一に、今回の報告と質疑はプロシーディングとしてまず電子媒体で公表され、『報告書』として刊行される。書籍として出版できるかどうかは未定である。

第二に、EUI 学長メニ教授を招聘しての今回のコンファレンスは、これまで

積み重ねられてきた EUI と EUIJ 東京の間の関係をさらに強化することになった。このあとも EUI からの招聘講師による集中講座などが予定されており、今後のロベール・シューマン・センターとの研究交流の発展を含めて、今回のコンファレンスの成果が生かされることになる。

第三に、今回の国際コンファレンスにゲスト・スピーカーとして参加した社会経済史研究者、国際経済史研究者たちは、欧州における広大な人的ネットワークのコアの人物たちで、今回のコンファレンスは、欧州の研究者ネットワークと日本の研究者を結ぶ意味をもつ。欧州統合を現状分析と歴史的分析の双方の観点から分析する作業は端緒にすぎたばかりであり、今後は、日本の研究者と欧州研究者のこの研究課題について連携を強めていくことになるであろうし、一層の研究交流が進められることになるであろう。